

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなの字形をよく見て、丁寧に書くことができる。鏡文字が少ない。学習したひらがなを使って、言葉集めも意欲的に取り組んだ。 音読する時には、繰り返しの文やリズムを楽しみながら、意欲的に取り組む児童が多い。 思ったことを話したくなり、話を最後まで聞かずに、途中で発言してしまう児童がいる。 伝え合う学習では、必要な事柄を選び、話す順序を考え、事前に文などに表してから発表するように取り組んでいる。伝え合う楽しさを感じている児童がいる一方、発表するとき、声が小さくなり、自信がもてない児童が数名いる。 学習の内容や友達の考えを聞き逃し、同じことを発表したり、的の外れた回答をしたりする児童が数名いる。 文章を書く学習が始まり、意欲的に取り組んでいる。助詞の使い方や拗長音などの表記の習熟が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降のカタカナや漢字への興味に繋げ、真剣に取り組む姿勢を保持できるようによさを認め、褒めながらすすめていく。 元気よく読むだけでなく、抑揚をつけたり、間を空けたりする工夫もできるようにする。 話を聞く時のルールを繰り返し確認する。友達の話や考えに関心を持ち、自分の考えと比べたり、考え直したりする中で、自分の考えを深めていく。 ペアや小グループから全体での発表と場の人数を広げて環境を考えながら取り組ませる。伝えたい事柄や相手によって声の大きさや速さに注意する意識をもたせ、話す場を設けて自信につなげていく。 話し手が自分に伝えたいことは何かを考えながら聞けるように、事柄の順序に意識させる。黒板に順序を示して視覚的に分かりやすくしたり、見通しをもって学習したりできるようにする。 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えていく。文章を読み返す習慣を付けたり、けやきタイムや家庭学習で繰り返し取り組ませたりして、習熟を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○字形やとめ、はね、はらいなどに気を付けながら書くことや形の似ている字を練習したことで意識して書くことができるようになった。習った漢字を使って文が書けるよう指導している。 ○登場人物の気持ちを想像して物語の音読をしたり、リズムのよさを感じながら詩を音読したりできるようになってきた。 ○伝え合う学習では、ペアや小グループから全体での発表と段階を踏んだり、場の設定を多くしたりしたことで、発表の時に自信をもち、皆に聞こえる声の大きさに伝える児童が増えてきた。 ○黒板や電子黒板を活用し、順序や方法を提示することで、見通しをもって学習することができるようになってきた。 △最後まで話を聞くことができず、思ったことをすぐに話してしまう児童が数名いる。相手の話に関心をもって聞いたり、相手の発言を受けて話をつないだりするように指導する。話を聞く時のルールを繰り返し確認する。 △助詞の使い方や拗音、拗長音の使い方は、習熟に個人差があるので、繰り返し指導していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題や応用問題など、答えが明確な問題に対して、積極的に発言する児童が多い。 10までの加法・減法の計算では、ほとんどの児童が身に付いているが、指を使って計算するなど、半具体物がないと計算できない児童もいる。 加法・減法の問題文を読み、場面を考えて立式することができない児童がいる。また、式から加法・減法の問題文を作ることがまだまだ苦手な児童が複数いる。 10までの構成分解の理解が十分ではない。また、10までの数の量感も身に付いていない児童 	<ul style="list-style-type: none"> けやきタイムや家庭学習などで基礎基本の定着を図り、自信をもって発言できるようにしていく。 計算カードを用いて、10までの加法と減法を繰り返し取り組み、徐々に半具体物を使用しない計算の定着を目指す。 挿絵を見て加法・減法の式を考えたり、生活の中の加法・減法の場面を繰り返し考えたりすることで理解を深める。 具体物や半具体物を使った操作活動を多く取り 	<ul style="list-style-type: none"> ○答えが明確な計算では、意欲的に発言する児童が多く、挙手することが定着した。 ○計算カードやタブレットを活用した「ドリルパーク」などを繰り返し取り組んだことで、10までの加法や減法、繰り上がりのたし算、繰り下がりのひき算の計算力が付いてきた。 △加法や減法の問題文では、「あわせて」「のこりは」などの言葉から立式する児童が多く、絵や場面から立式することが難しい児童がいる。そのため、立式する際に、図を書いたり、場面を考えたりして立式し、意味を理解できるよう繰り返し練習をしていく。

	<p>童が若干名いる。</p>	<p>入れ、加法や減法の意味理解につなげる。また、10を分けたり、合体させたりする活動も取り入れ、合成・分解と量感を育てる。</p>	<p>○10までの構成分解は、タブレットによる繰り返しの学習や半具体物を使った操作活動により身に付いてきた。しかし、大きな数の量感は、児童の生活にとって身近ではなく身に付いていない児童もいる。そのため、10より大きい数の数カードや位取り表などを使って視覚的に捉えるようにしていく。</p> <p>△自分の考えを伝えることはできるが、友達の考えを聞いて、比べたり、共感したりするまでは至っていない。隣同士など、近くの友達と意見を交流する機会を授業の中に多く取り入れて、考えを深めていく。</p>
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおを育てるような自然と触れ合う活動では、興味をもって取り組む児童が多い。 ・2年生との学校探検や、学校で働く先生や職員へのインタビューを通して、人との関わりに気付きながら交流することができた。 ・五感を働かせて季節の変化を感じたり、季節ごとの違いを発見する喜びを感じたりしていた児童が多い。 ・あさがおの生長の様子を楽しみ、タブレットを活用しながらすすんで世話をしている児童が多くいた。一方、世話を最後まで粘り強くできなかった児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いや願いを受け止め、学習に活動を多く取り入れ、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・2学期以降も、他学年や地域の方々等との関わり合いを通して、相手のことを想像したり伝え方を選んだりする力を育てる。 ・友達同士での発表の時間を設けたり、教師が価値付けたりすることで、諸感覚を働かせる力を育てる。学校外の公園も活用し、児童が自然と関わることができる環境を整える。 ・2学期以降、あきみつけやあさがおの生長を振り返る活動を取り入れ、生き物への親しみを持ち、大切にしようとする心情を育てる。 	<p>○様々な遊びや自然に触れる体験的な活動を通して、主体的に工夫しながら生活を楽しくしようとする姿勢が身に付いてきた。</p> <p>△自然と関わる機会が少なく、自然現象や生き物への関心、知識に個人差がある。</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の様子を感じ取って言葉で表現するなど、歌ったり身体を動かしたりすることを楽しみながら取り組んでいる。 ・拍を感じながら歌ったり、リズム打ちをしたりする。 ・鍵盤ハーモニカの演奏では、指の独立した動きや基礎的な奏法（タンギング等）を身に付ける指導を今後も丁寧に続ける必要がある。 ・楽器の扱い方を常に確認をして、大切にしよう指導を続ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の様子を感じ取る際のポイントを明確に伝え、強弱や速さなどを感じ取ることができるようにする。 ・一定の拍の流れを感じ取りながら表現できるよう、電子黒板や範奏で基準を示す。 ・独立した指の動きにつながる常時活動（指の体操）を楽しみながら続ける。書画カメラで拡大しながら範奏を見せる。 ・楽器の持ち方や音の出し方を必要に応じて確認し、心地よい音色に親しめるようにする。 	<p>○強弱や速さなどを感じ取ることができるようになった。</p> <p>○曲想に合わせて、歌ったり身体を動かしたりして楽しむことができた。</p> <p>△拍の流れを聴き取れないことがあるので、拍を意識した聴き方を継続的に指導していく。</p> <p>○指の体操を取り入れることで、独立した指遣いに慣れてきた。</p> <p>△基礎的な奏法（タンギング等）を身に付ける指導を継続していく必要がある。</p> <p>○楽器の特性を見付けて、心地よい音色を見付けたり、表現したりすることができるようになってきた。</p>

<p>図画 工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりの使い方に慣れていない児童がいる。 ・作品完成まで集中力が持続しない児童がいる。 ・作品の仕上げが雑になってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりの使い方のポイントを分かりやすく示す、繰り返し練習する。 ・活動のめあてを明確にしたり、完成した作品を掲示したりして作品制作への意欲を高め、集中を持続できるようにする。 ・作品例や見本を書画カメラで分かりやすく示し、丁寧に仕上げた作品の良さに気付かせる。 	<p>○意欲的に活動に取り組む児童が多かった。 ○はさみやのりの使い方に慣れてきた。 ○作例や見本を示すことで、活動に見通しをもち、自分のイメージをもつことができた。 △作例の模倣で終始してしまう児童が見られた。児童の作品を多く紹介する等、表現の幅を広げさせたい。</p>
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を楽しみながら、意欲的に取り組む児童が多い。 ・集団に合わせた行動や整列、きまりなどを守ることに意識が低い児童がいる。 ・体力的にも体幹的にも、自分の体をバランスよくうまく支えたり動かしたりできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを明確にし、学習の見通しを伝えていく。さまざまな運動を計画する。 ・楽しく運動に取り組むためのきまりを確認し、きまりを守って楽しく活動できるようにする。 ・様々な動きを体験させ、スモールステップで、できる運動を増やしていく。また、体幹を付ける運動や体力アップする運動を取り入れていく。 	<p>○いろいろな運動に興味をもち、楽しみながらさまざまな運動に取り組む児童が多かった。 △楽しく運動するきまりを確認したが、集団での活動から外れてしまう児童もいた。そうした児童も、他の児童も楽しく活動できるきまりを考え、その児童に合った指導を取り入れていく。 ○体づくりの運動遊びでは、様々な動きに挑戦し意欲的に取り組むことができた。また、体幹を身に付ける運動を意識し、体力アップに力を入れた。</p>
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を通して、自分の考えや感じたことを意欲的に発言し、動作化や役割演技など、登場人物の気持ちを理解しようと積極的に取り組もうとする児童が多い。 ・教材の場面から自身の生活や経験を思い出したり、結び付けて振り返ったりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を取り入れ、意見を気軽に発表し合えるような授業環境を作る。一部の児童にならないよう場の設定を工夫する。 ・授業の始めやまとめで、実際の生活の写真を提示するなど、自身の生活や経験と結び付けられるようにする。 	<p>○グループでの対話や役割演技を通して互いに意見を聞きあいながら、思考を深めている児童が多かった。 △物語の場面から、自身の生活に結び付けて考えることが難しい児童もいた。写真をさらに活用したり、実体験の話を共有しながら授業を進めたりして、自身の生活に結び付けられるようにしていく。</p>